

コロナ禍での神戸芸術工科大学における「人文地理学」の遠隔授業による実践

PRACTICE OF "HUMAN GEOGRAPHY" BY DISTANCE LEARNING  
AT KOBE DESIGN UNIVERSITY DURING THE COVID-19 EMERGENCY

石原 肇 芸術工学教育センター 非常勤講師

Hajime ISHIHARA Center for Art and Design Education, Adjunct Lecturer

要旨

本稿の目的は、コロナ禍の2020年度前期における神戸芸術工科大学でのオンデマンド方式による基礎教育科目である人文地理学の講義の状況を報告することである。その内容は概ね以下のとおりまとめられる。(1)講義そのものは順調に実施できた。(2)学生へのアンケートの結果から、オンデマンド方式による一般的効能は認められた。(3)人文地理学の授業への評価は、従前の対面方式と比較して遜色のないものであった。(4)授業内容についてみると、「芸術」に関する講義は履修生に関心をもたれた。履修生の専攻する領域に近い地理学の領域を講義に取り入れていくことは有用と思われる。今後の課題としては、神戸芸術工科大学は7学科からなり、その対象とする領域は幅広いことから、多くの学生が関心を持つ領域を取り扱っていくことが重要である。

Summary

The purpose of this paper is to report on the situation in which a lecture on Human Geography, which is a basic education subject, was conducted the on-demand method at Kobe Design University in the first half of 2020 during the COVID-19 emergency. The contents are summarized as follows.(1)The lecture itself was successfully conducted.(2)From the results of the student questionnaire, the general efficacy of the on-demand method was confirmed.(3)The evaluation of the Human Geography class was comparable to that of the conventional face-to-face method.(4)Looking at the content of the lessons, the lectures on "Art" were of interest to the students. It would be useful to incorporate into the lecture an area of geography that is close to the area of study of the student. As a future task, Kobe Design University consists of 7 departments, and the target area is wide, it is important to deal with the areas that many students are interested in.

## 1 はじめに

2019年冬から発生した新型コロナウイルス感染症は、人と人が接触する機会に感染するとされており、大都市での感染者数が多いことは既に知られている。このため、大学においては感染防止の観点からオンライン授業の取組みが急速に広まった。雑誌『都市問題』では2020年に3度のコロナ特集が組まれており、12月号では特集「コロナ禍と大学」とされ、5本の論考が掲載されている。この中で、森田(2020)は大学における授業のオンライン化と今後を展望している。オンライン授業は、コミュニケーションツールを活用した同時双方向授業とあらかじめ録画した授業映像を提供するオンデマンド授業に大別される。森田(2020)は、オンライン授業の特徴として、オンデマンド授業の再視聴可能性や時間的・空間的制約からの解放、多様性への対応の3点をあげている。また、オンライン授業の今後の展望として、オンライン授業の特徴を活かす授業への転換とそれによって得られたデータを分析することによる効果的な学習支援の実現を指摘している(森田2020)。

本稿に係る地理学関係の雑誌『地理』では2021年3月号において特集「オンライン講義・授業・学会の工夫と課題」が組まれた。長谷川(2021)は、オンライン授業を実施する上での環境の整備とゼミ・実習科目の工夫について、青木・林(2021)は、バーチャル巡検の企画と実施について、それぞれ報告している。筆者もこの特集企画に参画し、現任校でのオンライン講義等を中心に、その実践と課題について言及した(石原2021)。

筆者は、神戸芸術工科大学において2017年度から基礎教育科目である人文地理学を対面授業で実施してきた。コロナ禍の2020年度前期において同科目は、感染防止の観点からオン

デマンドによる遠隔授業による対応を図った。期末に行われる学生の授業評価によれば、2019年度のアンケート結果と2020年度のそれを比較すると、ほぼ同等の評価が得られた。

筆者は、2017年度から人文地理学を担当し、芸術工学を専攻している学生に合わせた教養教育としての人文地理学の講義を目指した実践について報告した(石原2018)。

そこで、本稿では、コロナ禍により急遽オンデマンド方式により実施することとなった、人文地理学の遠隔授業について、授業を講じていく上での工夫や実施状況と今後の課題について報告することを目的とする。

## 2 講義方法およびシラバスの変更

### (1) 従前と2020年度当初の授業計画の比較

神戸芸術工科大学は、神戸市西区に所在する。芸術工学部1学部であるが、7学科からなる。学生は芸術工科を志向する点では共通するものの多様性に富んでいる。2017年度から基礎教育科目としての人文地理学を担当する中で、例年、履修する学生に高校時代に地理を履修したかを尋ねると、学科によって異なるものの、概ね3割程度となっている。基礎教育科目であることから、人文地理学に関心があって履修する学生もいれば、基礎教育選択科目の一つとして履修する学生もいる。高校時代に地理を履修していなかった学生でも理解できるように書かれた奈良大学の稲垣稜先生の『現代社会の人文地理学』(稲垣、2014)をテキストとしている。

前記のとおり、筆者は、神戸芸術工科大学において2017年度から基礎教育科目である人文地理学を担当してきた。この3年間の対面授業では、同じ授業計画で授業を実施してきた。人文地理学の授業の中で取り上げる事項は表1に示すとおりであった。基本的には、全12章

からなる『現代社会の人文地理学』の各章に沿う形で12回の講義を行ってきた。このテキストを補う形で、第1回に「イントロダクション」を、第15回に「地理学をどんな場面で活かすか」を行ってきた。また、経済地理学の一分野として農業地理学があるが、このテキストでは農業の事項がないことから、第10回に「農業」の回を設けてきた。

このような形での授業を2017～2019年度に実施してきたが、毎年度、授業の中で、履修者に人文地理学の講義で扱うべき事項についてリクエストがないか訊いてきた。この回答の中で、「芸術」を扱えないかとの意見が出された。筆者は3年間の経験を踏まえ、2020年度に授業計画を見直し、「芸術」を取り入れることと

していた。表1に示すように、「地域調査」と「地形図からみる人間生活」をまとめて1回の授業で行い、それにより生まれる1回を「芸術」の回とした。

(2) 2020年度の講義方法と授業計画の変更  
神戸芸術工科大学では、UNIVERSAL PASSPORT(日本システム技術株式会社製、以下UNIPAという)を導入していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からオンラインでの講義を実施するにあたり、UNIPAの機能を強化させた。ただし、UNIPAだけに負荷をかけることを避けるため、神戸芸術工科大学ではMicrosoftのTeamsで教材の提供を、Streamで動画の配信を、Formsで課題の提示

表1 従前と2020年度当初の授業計画の比較

従前(2017～2019年度)		2020年度当初	
回	テーマ	回	テーマ
1	イントロダクション	1	イントロダクション
2	人口①	2	人口①
3	都市②	3	都市②
4	郊外と大都市圏③	4	郊外と大都市圏③
5	小売業④	5	小売業④
6	サービス業⑤	6	サービス業⑤
7	観光⑥	7	観光⑥
8	交通⑦	8	交通⑦
9	工業⑧	9	工業⑧
10	農業	10	農業
11	国土政策・都市政策⑨	11	<u>芸術</u>
12	エネルギー・資源問題⑩	12	国土政策・都市政策⑨
13	地域調査⑪	13	エネルギー・資源問題⑩
14	地形図からみる人間生活⑫	14	<u>地域調査⑪、地形図からみる人間生活⑫</u>
15	地理学をどんな場面で活かすか	15	地理学をどんな場面で活かすか

※丸数字はテキストの章を示す

※※下線部は変更箇所

や成果物の提出のやりとりをそれぞれ行うこととされた(図1)。また、受信環境が整わない学生を考慮し、オンデマンドによる教材提供が求められた。このため、パワーポイントに音声を吹き込み、動画を作成し、神戸芸術工科大学にそのデータを送るということになった。

システムの構築や講義の動画作成に準備期間を要し、神戸芸術工科大学では、前期授業は5月のGW明けから開始することとなった。筆者が担当した人文地理学は金曜2限であり、コロナ禍のこのような事態にならなければ、4月23日が第1回の講義の予定であったが、それが5月14日となり、授業計画を大きく変更することとなった。当初のシラバスの授業計画と変更後のそれを比較したものを表2に示す。

まず、15回が通常講義回数であるが、これが12回となっている。このため3回分については、従前は授業外で中間レポートと期末レポートを課していたが、2020年度は授業を代替する課題として3回のレポートを課した。

つぎに、各回の内容であるが、従前と同じ内容とそれに加えて「芸術」の事項を増やす必要があった。このため、従前からの事項で比較的関連しているものを1回にまとめて実施することとした。具体的には、「都市」と「大都市圏と郊外」、「サービス業」と「観光」、「交通」と「工業」をそれぞれ組合せ、1回の授業でまとめて扱うこととした。

### Teamsの使用用途

- ① 授業動画の閲覧…毎回UPされる動画URLをクリックすると、「Stream」内に保管された動画を見ることが出来ます。
- ② 課題の提出……授業動画内で、教員より質問が提示されます。回答URL「Forms」が投稿されるので、そこから飛んで、質問に必ず答えてください。  
※閲覧(出席)確認、理解度を確認しています。分からない場合も回答してください。
- ③ 配布資料の添付…教員より授業内容の資料がデータで添付されます。  
必ずダウンロードまたは印刷をし、見ながら授業動画を閲覧してください。
- ④ 教員への質問……学生より授業についての質問などを書き込むことが可能です。  
※教員からの返信に時間がかかることがあります。

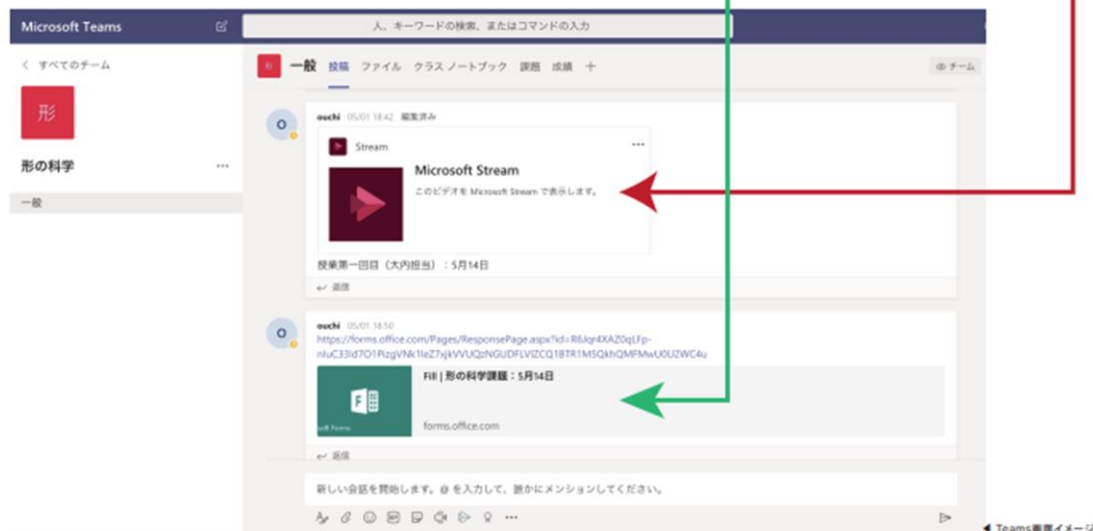


図1 学生に提示された参加方法

資料：神戸芸術工科大学芸術工学教育センター配布資料を引用

(3) 授業の実施

例年は 250 人前後の履修者がいるのだが、2020 年度は時間割の関係からか、90 名程度の履修者であった。

一般的なオンデマンド方式の講義と同様に、履修生は各回の授業画像を 1 週間の間に視聴し、課された小課題に回答してもらうこととした。この小課題の提出をもって出席の扱いとし、小課題の提出物について内容に応じて評価した。

3 回のレポートについては、一定程度の学習の後に課するべきであるが、一方で極端に終盤

に集中させると履修生への負担が大きくなることが懸念された。このため、第 6 回にレポート 1 回目の、第 9 回にレポート 2 回目の、第 12 回にレポート 3 回目の課題をそれぞれ提示し、提出までの期間もそれぞれ 3 週間以内に提出するように設定した。レポート 1 回目の課題は従前の中間レポートと、レポート 2 回目の課題は従前の期末レポートと同様にした。

レポート 1 回目の課題は、「自分の住んでいる(育った)市区町村はこんなところ!」ということで、市の広報マンになったつもりで作成してもらった。レポートに書き込む内容は、テ

表 2 2020 年度授業計画の当初と変更後の比較

当初			変更		
月日	回	テーマ	月日	回	テーマ
4.23	1	イントロダクション	5.14	1	イントロダクション
4.3	2	人口①	5.21	2	人口①
5.7	3	都市②	5.28	3	<u>都市②、郊外と大都市圏③</u>
5.14	4	郊外と大都市圏③			
5.21	5	小売業④	6.4	4	小売業④
5.28	6	サービス業⑤	6.11	5	<u>サービス業⑤、観光⑥</u>
6.4	7	観光⑥			
6.11	8	交通⑦	6.18	6	<u>交通⑦、工業⑧</u>
6.18	9	工業⑧			
6.25	10	農業	6.25	7	農業
7.2	11	芸術	7.2	8	芸術
7.9	12	国土政策・都市政策⑨	7.9	9	国土政策・都市政策⑨
7.16	13	エネルギー・資源問題⑩	7.16	10	エネルギー・資源問題⑩
7.23	14	地域調査⑪、地形図からみる人間生活⑫	7.23	11	地域調査⑪、地形図からみる人間生活⑫
7.3	15	地理学をどんな場面で活かすか	7.3	12	地理学をどんな場面で活かすか

10 回に中間レポート課題提示

14 回に期末レポート課題提示

6 回にレポート 1 回目課題提示

9 回にレポート 2 回目課題提示

12 回にレポート 3 回目課題提示

※丸数字はテキストの章を示す

※※下線部は変更箇所

キスト 1~8 章と「農業」で学習し、小課題を積み重ねてきたものを市の PR も含めレポートとしてまとめてもらう。

レポート 2 回目の課題は、文化産業や芸術と地域に関するレポートである。各自の関心のあ  
る任意の分野あるいは地域を調査し、自分の糧  
にしてもらおうという趣旨である。2020 年度  
は、第 8 回の「芸術」の授業の後に課題を課す  
ことで、より効果的になるようにした。

レポート 3 回目の課題は、「人文地理学で学  
んだこと」ということで、小課題の積み重ねや  
2 回のレポート作成を含め振り返るための課題  
設定とした。

実際に授業を進める上では、大きなトラブル  
もなく、比較的円滑に進められた。これは、芸  
術工学教育センターの中島歩実先生の筆者と  
履修者双方への弛まぬサポートに負うことが  
大きい。機器そのもの、あるいは使用アプリ  
等に不具合が生じることで、コミュニケーショ

ンツールが機能しかねなくなる場合があり得  
る。中島歩実先生のサポートで筆者と履修者  
の間でコミュニケーションが滞ることなく進め  
られた。

また、従前は科目専用のレポート用紙を配布  
していたが、2020 年度は電子データによる  
ファイルでのレポート提出となり、紙面の制約  
がなくなった。このことは、履修生にとって、  
芸術工学を専攻する学生の本領を發揮できる  
ことになり、力作のレポートが多く提出された  
印象がある。オンライン授業の実施による副次  
的効果といえるかもしれない。

### 3 「芸術」の授業内容と学生の反応

#### (1) 「芸術」の授業内容

冒頭記したように、本学は 7 学科を擁し、そ  
の対象となる領域はかなり幅広い。1 回の授業  
で 7 学科の全ての領域をカバーすることが難  
しいことは容易に想像される。石原 (2018) で

学科	媒体
E	模型、図面、スケッチ、ポートフォリオ、プレゼンシート
P	既存の物、自然物、模型、データ、3D、木材、紙、布、金属、プラスチック、シリコン、インターネット、SNS、車、商品、作品展、新聞、写真、絵、家具
V	広告、ポスター、書籍パッケージ、WEB サイト、電子書籍、グッズ、イラスト、空間デザイン、紙で描ける物
I	映像、CG
M	紙、電子媒体
F	布、紙、衣服、ファッションショー、展示会、アクセサリー、美術館、雑誌、デザイン画、映像、素材、糸、PC データ
A	ガラス、絵の具、粘土、金属、紙、布、さまざま

表 6 履修者の将来のアウトプット (2017 年度・2018 年度)

(石原、2018)

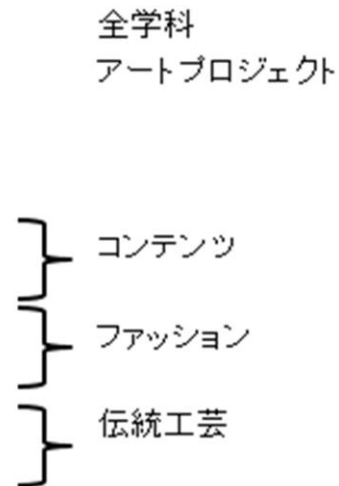


図 2 履修者の将来のアウトプットと授業で用いる論文のテーマ

資料：石原 (2018) に追記して作成

は、履修者の将来のアウトプットを把握している。これを参考に、多くの学科の履修生が関心をもてそうな事項としてアートプロジェクトを扱った伊藤(2017)を取り上げた。また、複数の学科の履修生が関心をもつことが想定される事項としてキャラクターを扱った和田(2015)も取り上げた。一方、ファッションや伝統工芸などは、限られた学科の履修生が直接的に関係するが、一般的に関心をもってもらえることが想定される。このことから、ファッションについて川口(2008)を、伝統工芸について佐野・吉田(2019)を紹介することとした。

これら4つの論文について、それぞれの筆者がどのような視点から地域調査を行っているかを解説し、その地域調査の結果からどのようなことが明らかにされてきたかを説明した。このことを通じて、地理学的な見方を理解してもらうとともに、地理学的な見方によって芸術がどのように捉えられるかを示した。

## (2) 学生の反応

「芸術」の授業の小課題は、4つのテーマに

についての解説を聞いて、少なくとも関心のある1つのテーマについて感想を書くこととした。学科別のテーマ別回答数を示したのが表3である。少なくとも関心のある1つのテーマの感想を書くようにと課したにも関わらず、複数回答する履修者が多くみられた。所属する学科の専攻する領域とはあまり直接関係のなさそうなテーマであったとしても、感想文が書かれる場合が多い傾向にあったといえる。

感想の記述について代表的なものをみていく。

まず「芸術」の面からは、「地域」に関する記述が多くみられた。「社会と一体となり、社会性を持った分野として存在している」「職人や作家とデザイナーが直接繋がり魅力を発信する場やプロジェクトとして発表する場に敏感である」「デザイナーの視点からどのような芸術的アプローチをしていけば地域活性化に貢献できるか」「他学科に関する芸術を知れる」「聖地巡礼」といった記述がみられた。

つぎに、「芸術」と人文地理学との関係性が

表3 「芸術」の小課題の回答テーマ数

学科	回答者数	アートプロジェクト	コンテンツ	ファッション	伝統工芸
E	20	9	8	9	4
P	8	4	1	0	2
V	16	5	9	5	5
I	5	1	1	0	2
M	5	1	0	0	0
F	6	0	2	3	0
A	2	1	1	1	0

※一人で複数記述している場合もあり、合計数は回答者数と一致しない

らのコメントも多くあった。「人と都市という観点から人文地理学に共通があると感じました」「アートが町おこしや地域アイデンティティなどの多くの地理的側面で用いられることを理解した」「芸術の分野を勉強するにしても、地域との関わりや周りの人脈は大切になってくるし、こういった地理学も学んでおいて損は無いなと感じました」「人文地理学と芸術との関わりを意識した上で芸術分野を学ぶことで、アイデアがさらに広がっていくのではないかと考えた」との記述がみられた。

さらに、人文地理学の面から記述する履修生もいた。「なんとなく掴みにくかった”人文地理”が身近に感じました」「地理学はすごく幅広くいろいろなものを見れるおもしろい分野だと思いました」といったものであった。

学生の感想の記載をみると、人文地理学の授業の中で芸術の項目を設定する意義はあるようにみえる。

#### 4 学生のオンデマンド講義の受け止め

教務課が行った授業アンケートの学生の記述から、学生がオンデマンドによる人文地理学の授業をどのように受け止めているかみていく。

まず、講義方式についてである。この授業がオンライン実施されてどう感じたかとその理由については、以下のとおりであった。「5. とても良い」と回答した学生の理由では、「自分のペースで学習でき分からないところは何回も見直す事が出来るから」「講義の感想やコメントを考える時間ができるから」「聞き逃したところや、課題について分からないと感じた際、再度動画を見返すことができたので理解が深まりやすかった」となっている。「4. 少し良い」と回答した学生の理由では、「毎回のstreamの内容が適量で、関心を抱きながら授

業を受けられたため」となっている。一方で、「2. 少し良くない」では「レポートが大変だった」や「1. 全く良くない」では「私たち生徒側が慣れていないのもあり、先生も同様だろうが、文章を読み上げただけの授業で、要点が全く伝わらなかった」といった回答がみられた。

つぎに、授業に関してである。良かった点としては、「教科書に沿った説明の後に補足としてさらに説明していたことで理解が深まったと感じる」「芸術についても取り上げていておもしろかった」「動画の公開期間や課題の提出期間に余裕を持たせてくれたことで安心して自分のペースで学習できた。受講できて良かったと思う。」「課題を出題する意図が分かりやすかった。」「課題をするにつれ情報が興味深いと思った。」「多くの新しい知識を学びました。課題の論文を通して、自分でデータを調べた達成感を実感しました。」「毎回の課題が進めやすかった分、レポート課題をしっかりと出されていたので総合的に充実した授業を受けられた点。」「毎回の課題で、自分の住んでいた場所についてさらに詳しく知ることができた。」「話すスピードがゆっくりだったので聞き取りやすかったです。」などが上げられた。

一方で、授業で改善を求めたい点としては、「第1回レポート課題のフォーマットが微妙にわかりづらかった。」「私がそもそも資料やデータを理解するのが苦手ということもあって、せっかく資料やデータを見せてもらっても、その資料のどの部分を見て説明しているのかがわかりにくかったことがありました。すみません。なので、見ている部分を色で囲ってもらえると助かります。」「解説が教科書をそのまま読んでるように感じた。」「話すスピードが遅すぎる。」「声」「オンライン授業なら授業料を返してほしい。」などの意見があった。



## 5 まとめ

本稿では、コロナ禍の2020年度前期における神戸芸術工科大学でのオンデマンド方式による基礎教育科目である人文地理学の講義の実施状況を報告した。その内容は概ね以下のとおりまとめられる。

- ① 講義そのものは順調に実施できた。
- ② 学生へのアンケートの結果から、オンデマンド方式による一般的効能は認められた。
- ③ 人文地理学の授業への評価は、従前の対面方式と比較して遜色のないものであった。
- ④ 授業内容についてみると、「芸術」に関しての講義は履修者に関心をもたれた。履修者の専攻する領域に近い地理学の領域を講義に取り入れていくことは有用と思われる。

今後の課題としては、神戸芸術工科大学は7学科からなり、その対象とする領域は幅広い。人文地理学という基礎教育科目の性格から、多くの履修生に関心を持ってもらえる「芸術」の中の領域をさらに見出し、講義の中に加えていくことが重要であると考えられる。

## 謝辞

授業運営では、芸術工学教育センターの中島歩実先生のご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) 森田裕介、「大学における授業のオンライン化と今後の展望」、『都市問題』、111 (12)、2020、pp.10-14
- 2) 長谷川均、「オンライン授業 環境の整備とゼミ・実習科目の工夫」、『地理』、66 (3)、2021、pp.21-27
- 3) 青木賢人・林紀代美、「バーチャル巡検の企画と実施」、『地理』、66 (3)、2021、pp.28-35
- 4) 石原肇、「オンライン講義、ハイブリッド講義の実践と課題」、『地理』、66 (3)、2021、pp.36-42
- 5) 石原肇、「神戸芸術工科大学における教養としての人文地理学での講義の取組み」、『芸術工学2018』、2018
- 6) 伊藤春陽、「アートプロジェクトによる地域づくりの可能性」、『地理』、62 (6)、2017、pp.51-57
- 7) 和田崇、「アニメキャラクターを活用した地域プロモーションー島根県の事例ー」、原真志他編、『コンテンツと地域』、ナカニシヤ出版、2015、pp.152-166

- 8) 川口夏希、「更新された商業空間にみるストリート・ファッションの生成ー大阪市堀江地区を事例として」、『人文地理』、60 (5)、2008、pp.443-461
- 9) 佐野遼平・吉田国光、「九谷焼産地における修学・就業の来歴からみた技術継承ー石川県能美市寺井地区を事例にー」、『地理科学』、74 (1)、2019、pp.1-22